

「岩手県立山田高校ボート部 鎌野監督よりメッセージ」 2012.1.20

先週までの戸田での合宿、ご支援、本当にありがとうございます。

おかげさまで選手たちも、充実した10日間を過ごせたようです。この時期、水の上に行くことが出来、選手たちは、目をきらきらさせ頑張っていました。これも、多くの方々が支えて下さっているから、実施出来ているのだと選手共々本当に感謝いたしております。

状況を少し整理します。

3月の震災直後、ボートどころではない一年が頭をよぎりましたが、多くの皆様のご支援を頂き、何とかシーズンを終えることが出来ました。ありがとうございます。

4月中旬は、まだ、避難所生活の選手が多く、練習も中々ままならない状況でしたが、やっとスタートしたばかりという感じでした。

4月29日より、無料で提供していただいた宿を活用したり、他校の合宿所を活用することで合宿をスタートしました。週末のみでしたが、水上に行くことが出来ました。

5月いっぱいは、県立漕艇場である盛岡の御所湖を利用しての活動でした。新入部員も例年よりは少々少なく感じましたが、それでも7名入部してきました。

御所湖までは片道3時間かかります。このドライブにもなれてきた6月ころ、インターハイ会場である花巻市田瀬湖に拠点を移しました。

田瀬湖艇庫2階を無料にて貸し出してもらい、週末のみ合宿生活をスタート。この時点では、まだ避難所生活の選手がほとんどでしたので、平日も体育館で寝泊まり、週末も体育館同様の大部屋生活で少々かわいそうな気もしましたが、選手たちは、気にもせず「ボートを漕げる環境があるだけで」と、感謝いっぱい生活していました。

6月中旬より、レース期に突入。この頃より、学校に集まった義援金を少し援助してもらえるような形になりました。大半の選手の家庭が全壊している事より、各家庭に、合宿費やら何やらを負担させることには気が引けましたのでこのような義援金が本当に助かりました。

7月からは県合宿・レース・山田高校の週末合宿と選手も週末は必ずと言っていいほど遠征に出かける日々が続きました。この辺からは、費用の問題もかなり深刻な問題となっていましたが、何とか乗り切っております。7月後半から8月初めに仮設住宅が完成し、被災した全選手が仮設に移動することが出来ました。丁度、インターハイ遠征で田瀬合宿を実施しているあたりに引っ越しのようでした。県内で一番遅かったのですが、山田高校も避難所が解消されました。多くの物品が撤去され、普通の学校に戻る努力を始めました。

8月インターハイをむかえ、多くの選手が出場することができうれしく思っております。8月以降は新人戦・国体と戦いながら、週末の合宿生活は相変わらずでした。

10月16日 東北新人大会を無事終了することができました。何とか女子ダブルで静岡の全国選抜切符を獲得することができましたが、感じたことは、やはり乗れないハンデはシーズン後半になり顕著に表ってきたなどという印象です。

何とか1日でも早く山田湾に戻れるよう願うばかりです。

山田町のがれきの撤去は、ほぼ終わりました。山田湾の搜索活動もだいぶ進みました。岸壁を今後どうするかといった計画が立てられ、工事等が進み始めています。

山田高校の艇庫は残念ながら、1階のがれき撤去を終えただけで何も進んでおりません。岸壁工事も、湾港のはずれということもあり、すぐにというわけには行かないようです。

護岸工事や地盤沈下したかさ上げ計画が進んでから、艇庫の解体・修理等をするようです。いつになることやら…、といった感じです。

県の方には2・3年はかかるような話しをされましたので、それでは困ると言った趣旨の申し出をし、何とか来年度にはとお願いしています。

3年生が抜け、1・2年生は16名となりました。内訳は、1年生7名(男子3／女子4)、2年生9名(男子7／女子2)です。親御さんを亡くした生徒は3年生にもいましたが、実は1年生にも1名います。父親を亡くし、高校生の姉や弟もいますので、母親のパートだけでは、厳しいことはその通りです。その他、16名中、11名が自宅を失ったため仮設住宅暮らしです。また、JRが無くなったため、毎日1時間以上登下校に費やす時間も増えた生徒もいます。

とにかく、現状を少しでも変えようと努力はしていますが、生活環境の変化は大きすぎて、まだまだ部活に集中できる環境とはほど遠いですが、出来ることをコツコツやるしかないといった状況です。